

<白金標準、6日 WPIC 第2四半期 PGM 需給報告待ち・・・>



(出所：オアシス)

中国の恒大集団が香港取引所で15ヶ月ぶりに株式売買取引が再開されている。また中国政府はローンプライムレートの金利を引き下げ、不動産取得時の第1取得者や第2取得者の頭金制度の見直しを発表するなど不動産の販売促進を打ち出している。そのため中国リスクが後退し、それまでの高値4384円を新甫発会から上回るなど、6月以来の4534円まで高値を試している。ただ不動産開発会社大手の碧桂园（カントリーガーデン）の格付けを大手格付け会社ムーディーズが「Caa1」から「Ca」まで3段階の引き下げを発表し、デフォルトのリスクが高まりを見せるなど、中国リスクを受けて週末には4430円まで下値を追っている。ただ今週は6日にWPIC第2四半期PGM需給報告を控えており、第1四半期の30トンの供給不足が更に増加すると価格の下支えとなるのではないかと懸念されている。特に鉱山会社の決算でインパラ・プラチナムは、6月末までの1年間でプラチナ生産量は4%減少の290万オンス（89.9トン）と発表し、インパラプラチナムCEOはPGM市場のファンダメンタルズは現在の価格が示唆するものより強いと述べるなど、WPIC第2四半期PGM需給報告を受けて巻き戻しの動きが強まると思われる。

<テクニカル>

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDの上昇が止まり、シグナルは上昇している。またRCIは短期が下げながら長期は上昇しており、目先オシレーターは調整の域と思える動きを示すなど10日移動平均線に向けた調整安の動きに思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 3,220,000 円(2023 年 9 月 4 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 87,120 円(2023 年 9 月 4 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当日本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>